

# 第32回 全日本大学男子選手権大会

平成9年8月8日(金)~10日(日) 鹿児島県桜島町/桜島溶岩グラウンド

## 復活! 日本体育大学



## 6年ぶりの栄冠!!

日ソ協記録委員  
時尾 正嘉

標記大会は、風光明媚な錦江湾と火の島・桜島を仰ぐ桜島溶岩グラウンドにおいて開催された。

桜島は、日に7回色を変えるといわれ、なかでも黄金色に輝く夕映えの錦江湾に浮かぶ山肌と稜線はひととき美しい。

今大会は降雨による中断も多く、大会関係者の方々のご努力とご苦労は大変なものがあったが、日程通り無事終了することができた。

全国各地より勝ち進んだ32チームは強豪揃いで、1回戦から1点を争う白熱した好試合が多かった。

結果は、日本体育大学が第26回大会以来6年ぶり21度目の優勝を飾り、名門復活を果たした。今大会のように男・女アベックでの優勝は、第22回大会以来10年ぶり9度目のことである。



▶浜口と共に優勝に貢献した日体大・岩見

◀決勝では敗れたものの、力投を続けた関西大・西岡



優勝した日本体育大学は、5試合を浜口、岩見両投手の力投リレーと望月、木場、原田の3名の4割打者が優勝の原動力となった。

一方、準優勝の関西大学の5試合で45三振を奪った西岡の好投も見逃せない。

その他、活躍した選手は、打撃部門では、6割の好打率を残した早稲田大学の田部井、1試合2本塁打を放ち、今大会3本塁打の日本体育大学の布野などが目を引いた。

また、投手部門では、関西大学の西岡をはじめ、ノーヒットノーランを達成した関東学園大学の鈴木、大阪経済法科大学の古林、龍谷大学の辻井、神戸学院大学の竹下などの活躍も光った。

### 第32回全日本大学男子選手権大会

1	立命館大学(京都)	4	3
2	愛知学院大学(愛知)	1	2
3	大阪経済法科大学(大阪)	2x	2
4	長野大学(長野)	1	3
5	龍谷大学(京都)	3	1
6	東京理科大学(東京)	1	6x
7	沖縄国際大学(沖縄)	6x	2
8	筑波大学(茨城)	5	1
9	中央大学(東京)	0	7x
10	関西大学(大阪)	4x	8x
11	福岡大学(福岡)	4x	6
12	愛知大学(愛知)	2	11x
13	慶応大学(東京)	0	18
14	京都産業大学(京都)	7	1
15	国士舘大学(東京)	2	5
16	第一経済大学(福岡)	1	1
17	徳島大学(徳島)	5	0
18	東海大学(神奈川)	9x	0
19	四国学院大学(香川)	0	4x
20	日本体育大学(東京)	18	4
21	京都大学(京都)	3	7
22	熊本学園大学(熊本)	4x	3x
23	関東学園大学(群馬)	5x	3
24	鹿児島経済大学(鹿児島)	0	2
25	広島経済大学(広島)	1	1x
26	仙台大学(宮城)	14x	1
27	神戸学院大学(兵庫)	16	5
28	福島大学(福島)	1	0
29	広島修道大学(広島)	1	1
30	中京大学(愛知)	7x	9x
31	早稲田大学(東京)	7x	3
32	同志社大学(京都)	1	1

日本体育大学

左前安打で出塁すると、すかさず二盗、三盗し、チャンスを広げた。二死後、7番・西岡が二塁手横をライナーで破る適時打で山岸を迎え入れ、先制した。追う日体は4回、一死から6番・望月が左前安打で出塁。相手野手のミスも手伝って、8番・木場の適時打で同



▶先制した関西大だったが……

### ☆決勝戦 (15時12分〜18時46分)

日本体育大学	0	0	0	1	2	0	1
関西大学	0	1	0	0	0	0	0
	1	4					

点に追いついた。その後、試合は5回表一死のところ以降のため、1時間28分中断した。再開直後、日体は5番・原田の右越2点本塁打で勝ち越し。7回にも1点を加えてダメを押した。

### ★準決勝戦 (12時27分〜13時55分)

沖縄国際大学	0	0	0	0	0	3	0
関西大学	2	0	1	5	0	3	X
	11x						3

沖国は先発・伊芸がいきなりの2死球で平良と交代。守備の乱れと5番・山岸の安打などで、いきなり2点を失った。その後も関西に着々と加点され、一方的な試合展開となった。沖国は6回、3長短打と相手守備の乱れで3点を返したが、焼け石に水。余りにも前半の失点が大き過ぎた。

### ★準決勝戦 (12時15分〜14時28分)

日本体育大学	1	0	3	2	0	1	0
早稲田大学	0	1	0	0	0	0	0
	1	7					

日体は初回、一死二塁の先制機に3

番・西田の右中間二塁打であっさり1点を先制した。

一方、早稲田は2回、この回先頭の4番・高杉が中越本塁打を放ち、試合を振り出しに戻した。

追いつかれた日体は3回、二死からの3連打で3点を奪って突き放し、続く4回にも2点を加え、リードを広げた。6回には8番・木場がダメ押しの本塁打を放ち、早稲田を圧倒。余裕の勝利で決勝進出を決めた。



▶最初から最後まで雨にたたられた大会だった